

# 令和2年度 第4回 静言研運営委員会

令和3年1月29日  
静言研ホームページ上にて

## 1 会長あいさつ(寺谷校長)

紙上での実践発表、拝読いたしました。どれも素晴らしい実践でした。この実践が、会員やこの後続く先生方の力にもなり得ることを実感しました。

静言研の在り方についてのご意見も、ありがとうございました。前向きに検討していきます。

## 2 県事務局より(大川)

### (1) 東海四県事務局会議の報告(1/25 zoom 会議にて)

- ① R2 愛知大会…大会冊子を年度末までに送付してくれる。
- ② R3 岐阜大会…紙上開催にする。四県の交流は今後も続けたい。
- ③ R4 静岡大会…従来通りの開催に、工夫を加え計画する。分科会数(発表数)を各県の負担にならないよう静岡大会から変更する。

### (2) 評議員会

- ① 確認…各地区から、評議員の方々に、今年度のお礼をお伝えくださったでしょうか。来年度もお引き受けいただけるかの確認は済んでいるでしょうか。  
静岡市立清水三保第二小(清水直子先生)に連絡して下さったでしょうか。
- ② 次回運営委委員会までに…各地区、今後の静言研の在り方について、評議員の先生方にもご意見をいただいてください。

### (3) 静岡県聴覚障害児支援対策委員会

静岡県は厚生労働省から「聴覚障害児支援中核機能モデル事業」を受けています。その支援体制整備を静岡県乳幼児聴覚支援センターが担っています。隔月で委員会が開催され、医療・福祉・教育に携わる人が集まり、現状把握や情報交換をしています。静言研にも会議への依頼があり、会長と事務局長が参加しています。

昨年末、ことばの教室や幼児教室にアンケート依頼があったかと思います。聴覚に支援が必要な子どもたちがどのような支援を受けているのか、担当する先生方が期待する研修は何か

どが調査項目にありました。回答率は80%近くありました。第3回委員会で、集計結果を、静言研を代表してお伝えしてきました。医療や福祉の現場の方々に現状を知っていただく機会になりました。

#### (4) 来年度における準備

- ① 新設・増設情報…今日までに、志太・榛原地区、西部地区から情報が入っています。今後も分かり次第、**県事務局**にお知らせください。
- ② 静言研組織…組織表を送付します。**3月運営委員会までに各地区で決め、県事務局に報告してください。** **資料1**

### 3 各地区事務局より

持続可能な静言研を考えていきたい

【変わらないこと】「子どもが必要なときに、身近なところで、適切な質の高い教育を、負担がかからずに自由意思で受けられる教育」の充実を目指す。

(全難言協)

(今後の静言研についての意見をお読みください。)

(紙上発表して下さった先生方の実践についての意見や感想が届いています。素晴らしい実践、本当に勉強になります。)

※第3回定例研の実践発表については、2月上旬までに各教室に届けられる予定です。感想や意見を次回の運営委員会で報告できるよう各地区でまとめておいたください。

#### (1) 東部地区 (佐藤先生) **資料2**

#### (2) 中部地区

##### ① 全体 (宇治原先生)

##### ② 静岡 (西村先生) **資料3**

##### ③ 志太・榛原 (宇治原先生) **資料4**

##### ④ 小笠・掛川 (榛葉先生) **資料5**

(3) 西部地区（森下先生） 資料6

4 各運営部より

(1) 研究部（杉本先生） 資料7

(2) 広報部（大村）

① 連絡先の確認

今年度の会員必携やHP教室情報にある、教室名、住所、電話番号、メールアドレスなどに間違いがないか各地区事務局で確認していただき、1/29までに確認の結果を広報部にお知らせいただきました。ありがとうございました。

来年度スムーズな会員登録ができるよう、準備を進めています。

(3) 会計部（新井） 会員のみなさまに知っておいてほしいこと

① 今年度の会計処理

○R2 会費会計（清水浜田小：大石先生）

- ・オンライン会議、研修に備えたシステム導入を考えました（zoom 契約）。会員の **み** が使うことができます。

○R2 補助金

- ・580万円を使い切る予定。
- ・11/2 現在あった残金 1,035,550円は、県福社会より「オンライン研修に必要なものを購入してもよい。」との指示がありました。県事務局で全県を見渡し、機器などを購入しました。県事務局に保管することにしました（パソコン、プロジェクター、スクリーン、スピーカー、webカメラ等）。会員の **み** が使うことができます。
- ・立て替えについて。

ありがとうございました。1月に現金書留で送りました。

毎年、補助金は前期分（5月末）と後期分（来年度4月）にわけて交付されます。後期分の補助金の入金はまだされていないので、今年度は定例研・事務局（会費）会計から借りて支払うことにしました。

---

### ○会計監査(2/8)

・書類の不備などは、会計担当や県事務局から連絡させていただきます。

---

### ② R3年度の予算について

#### ○R3 会費

・3,000円集める予定。9月、10月頃より、来年度予算立ての準備が始まっているところがあります。そのため、来年度からの減額は考えられないという理由からです。

#### ○R3 補助金 資料8

・補助金は個人にいただけるものではありません。  
・例年通り、580万円いただけるものとして予算を立てます。

---

### ③ 講師謝金について 資料9

規定があります。今一度ご確認ください。

---

### ④ 昨年度(令和元年度)の実績報告書の送付

令和元年度(平成31年度)の実績報告書をお持ちの方は、県事務局までご返却ください。会計監査時や、着払い送付で構いませんので、2月末までによりしくお願いします。

---

### (3) 調査対策部(澤野先生)

① 確認…要望書と回答書をお読みいただけたでしょうか。  
所属長様にもお渡しいただけたでしょうか。

---

#### ② 年度末の状況調査(アンケート)について

・全教室に回答していただきたいものです。  
・2/10(水) 静言研ホームページにアップするので、ダウンロードしてください。  
・3/5(金) 提出締め切り

---

#### ③ 今後の調査対策部会

○日時 令和3年3月日( ) ※下旬です。決まり次第お知らせします。  
10:00~12:00

○場所 静岡市特別支援教育センター 1階大会議室

○内容 ・アンケートの整理  
・今年度の反省  
・来年度の要望事項

○参加者 新旧担当

※会合通知は、澤野先生から出ます。

※新旧担当どなたがいらっしゃるか、また旅費を澤野先生までお知らせください。

---

---

澤野先生 → 大石和枝先生(会計:静岡市立清水浜田小学校)  
県事務局

に連絡ください。

※駐車場がありません。公共の交通機関を使用してお越しください。

※印鑑をお持ちください。旅費は静言研が負担します。

---

---

---

## 5 諸連絡

---

---

---

## 6 次回第5回運営委員会について

○日時 令和3年3月日( ) ※下旬です。決まり次第お知らせします。  
13:00~16:00

○場所 静岡市特別支援教育センター 1階大会議室

○内容

- ・今年度の反省
- ・来年度の組織、事業計画
- ・教室の新設、増設情報
- ・東海四県静岡大会
- ・第一回定例研
- ・会計
- ・教室登録、会員登録
- ・新旧担当者の仕事の引継ぎ

○参加者 県事務局、各地区事務局長(新旧)、各運営部長(新旧)、会費会計担当(新旧)、東海四県事務局長

※会合通知は、県事務局から出ます。

※新旧担当どなたがいらっしゃるか、また旅費がいくらかかるかを各事務局でまとめて県事務局までお知らせください。

県事務局 → 大石和枝先生(会計:静岡市立清水浜田小学校)  
に連絡します。

※駐車場がありません。公共の交通機関を使用してお越しください。

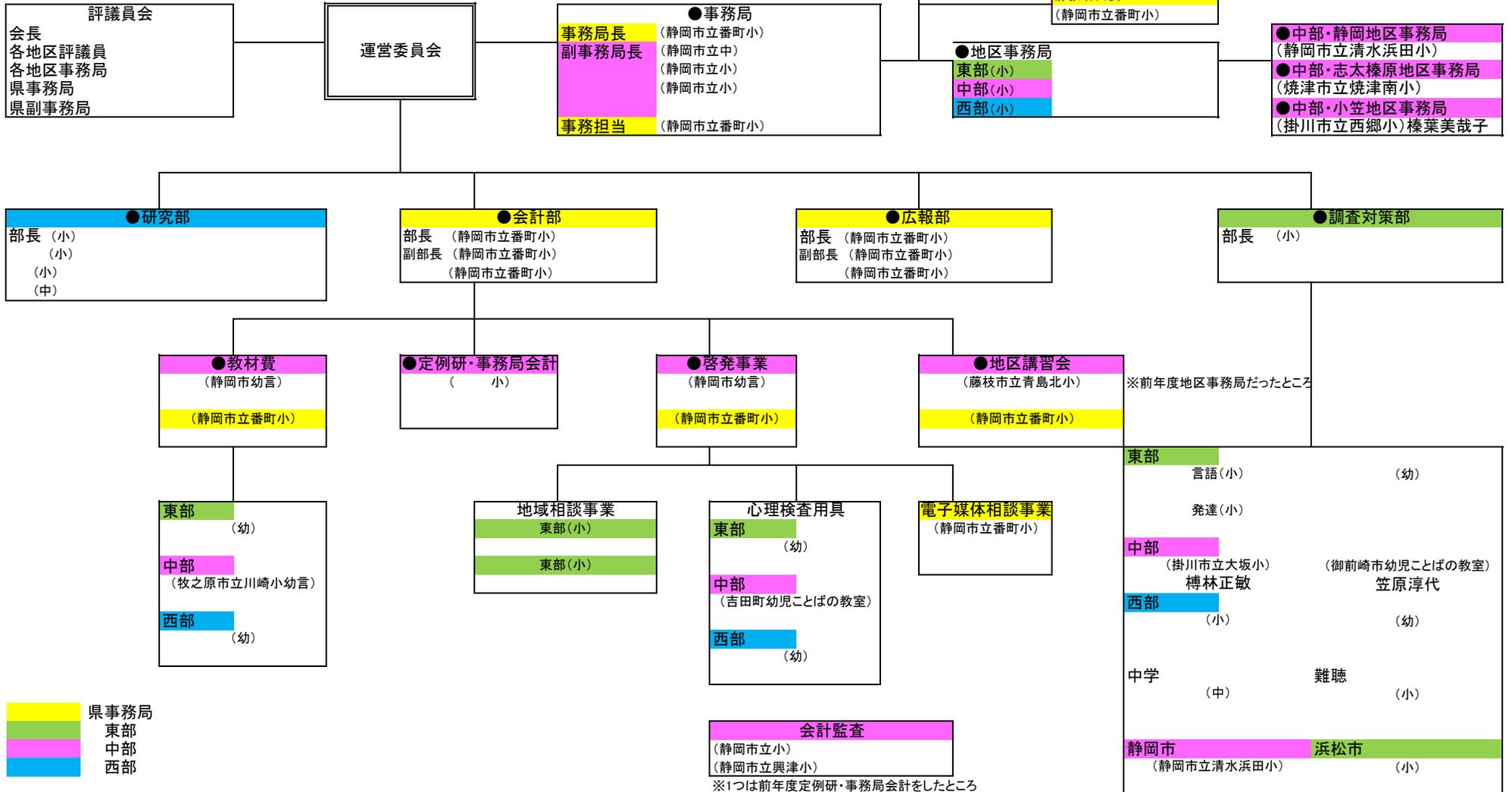
※印鑑をお持ちください。旅費は静言研が負担します。

※検討したいことは、できるだけ事前に県事務局にご連絡ください。

※資料は70部、準備してください。

# 令和3年度 静言研 組織運営表

●会長 (静岡市立番町小 寺谷正博) (全難言理事/静岡県特別支援学級・通級指導教室設置校長会幹事/静教研幹事)  
 副会長 東部( 小 ) 中部(焼津市立焼津南小 ) 西部( 小 )  
 中学(静岡市立末広中 保崎寿伸) ※東・中・西部の副会長は地区事務局の学校の校長先生  
 顧問 (静岡大学)大塚 玲





**東部地区 報告**

文責：佐藤久美子

①令和3年度第2回定例研（東部地区担当）について

・日時 令和3年11月12日（金） <会場> 富士市 富士交流プラザ

②今後の静言研運営についての意見

**○定例研を変えていく○各地区の研修会や体制を充実させることについて**

- ・静言研があったおかげで、今、なんとかやれている自分があるように思う。無理なく継続していけるといいなと思っている。発達は外部の研修会も充実しているので、そこで個人的に補えるように思うが、ことばについては、発達ほど研修会がないので、大丈夫か心配している。
- ・定例研は開催側も参加側も負担が大きく、大勢が集まることは心配。また、実践発表等も準備が大きな負担になっていると思う。開催数や内容を削減していく方向で考えたい。
- ・発達や言語関係の講演会等は県内ではほとんど無いので、貴重な機会。定例研が講演会を中心としたものになれば、ある程度大人数になっても参加しやすいのではないかな。
- ・これまで、積み上げてきた経緯があるので、理想は現状を維持することだと思うが、それが難しいということなので、定例研を減らしていくことは仕方が無いと思う。ただ、定例研での分科会（実践発表）は無くさないでほしい。言葉と発達、両方の分科会を作ってほしい。
- ・定例研が減るとなると、地区ごとの研修会の充実が、今まで以上に大切になると思う。他地区での研修会にも、会場の都合で人数的に余裕のある場合などは、参加できるように、案内をしてもらえるとありがたい。
- ・新任の先生にとって、通級教室についての研修はとても大切。各地区で行われる特色ある研修会に自由に参加できるようになると良い。
- ・定例研を減らす案には賛成。本校では県職には旅費の支給があるが、市の支援員という立場の幼児教室担当者は今年から支給されなくなった。担当者の負担も考えると定例研を減らすことも良いのではないかなと思う。
- ・専門性を高めるための定例研に代わる研修の機会を考えたい。  
（例、今年度中部地区の YouTube 研修は時と場を選ばず参加できてありがたかった。）
- ・地区講習会をオンラインで実施できるよう、Zoom 等の整備（年会費・園や学校の Wi-

Fi

環境を使うことの承諾等）を進めたい。遠方の会員は集まるのが大変だし、コロナが終息するまでは近くても集まれないので、今後も必要だと思う。

- ・コロナ禍で Zoom や紙面での報告等の研修を開催してくださり、ありがとうございました。富士市のことばの教室では公開保育研修や自主参観研修の機会があったり、言語聴覚士に指導を仰ぐ機会もあって充実していた。
- ・改めて、静言研で会員が顔を合わせて各地区の実践を学んだり、新たな知識を講演会で得たりすることの大事さを感じた。
- ・平日に会を開催していただきたい。

- ・Zoomなどの取り組みを、取り入れてはどうか。
- ・平日開催で、研修を行わないのであれば、研修会として存続していいのか。出張という形でなければ参加しないと思う。仕事が多くて実がない会になり、参加する人も減るのではないかな。平日開催できるよう、管理職の理解を得られるようにしてほしい。

#### ○地区の区分けも静教研と同じにする。

- ・浜松市にも案内しつつ、浜松の情報ももらったり、情報共有は行っていきたい。

#### ○幼児担当者の関与がほしい。

- ・幼児担当の関与という点では、現実にはなかなか難しいのではないかなと思う。
- ・具体的にはどのような関与のことか。定例研の手伝いや補助金会計の取りまとめ、静言研での発表等、現在も関与している。

#### ○総会、運営委員会、校長会、評議員会について

- ・定例研の内容としては、総会は外せないのではないかな。校長会については、本校の校長は出席した感触から、必要性を感じていないようだが、寺谷校長のように静言研の重要性をしっかりと理解している方が仕切ってくれば、建設的な意見も出て、違ってくるのではないかなと思う。
- ・運営委員会のやり方は、オンラインでも良いのではないかな。そうすれば会から出す旅費が浮くと思う。

### ③調査対策部について

- ・今年度担当してみて、もし、今後もアンケートを続けるようであれば、アンケートの集約はパソコン上でできるようにしていった方が良いと思った。
- ・通級指導教室の様々な要望は、各地区へ提出する方が有効なのか、県へ提出する方が有効なのか、よく分からないので、有効な方へ提出するのがよいと思う。
- ・基本調査のデータの開示は必要だと思う。そうすれば「静岡版」「浜松版」「それ以外版」、場合によっては「各市町版」等の変幻自在な要望書を作ることができるのではないかな。
- ・「県とのつながり」という点では、通級教室に対する「理解・拡充」という役割は大きいと考えられるので、「全県版要望書」はやはり必要なのかもしれないと思う。
- ・アンケートの生かし方だが、各地区に任せるとなると、県に直接要望書が行きにくくなるのではないかな。県へ交渉する機会が無くなってしまうと、復活することは難しいと思う。できれば、県に直接話せる機会は、無くさない方向で継続できないだろうか。

### <東部地区事務局より>

- ・令和2年度は、集まって報告したり、研修したり、話し合ったりすることが一度もできませんでした。上記の意見は、文書でいただいたもので、検討する機会もないので、そのまま列記しました。たくさんの積極的なご意見、ありがとうございました。早く、会って相談、意見交換できますように！

なお、東部地区は、第5回地区講習会を3月1日(月)15:30~16:30、Zoomを使ってオンライン会議で行います。内容は、本年度の反省・意見交換・次年度活動の確認・新任担当の振り返り、などです。

## 静岡地区 事務局より

全教室から意見を集めました。すべて掲載させていただきます。

### 1. 今後の静岡言研の在り方について

#### 【定例研・講習会について】

- 提案の方向性について賛成。今後のスケジュールで、5月総会→夏 評議委員会 であるが、総会に提案する前に、評議委員会のアドバイスをもらってはどうか(アドバイスではなく、現状の方向性意図を知ってもらうという趣旨でも良い)
- 状況が変化している中で「持続可能な静岡言研」がキーワードだと思います。研修会については、定例研は出張旅費等のことを考えると回数を減らしていくことも致し方ないのではないかと思います。地区講習会が充実してきていると思うので研修の機会は確保できるのではないかと思います。ただ、総会、校長会や評議委員会については、やり方を検討する必要があると思います。
- 本来なら、市教委、県教委の研修で通級指導に必要な基礎的な研修を行っていただきたいです。(特に言語に関する委員会主催の研修は全く行われていないのが現状です。)そこで扱われなかった研修を、必要に応じて自分たちの会費で企画、運営できるようにしたいです。
- 研修については、県全体で集まる形でなくても、各地区の研修が充実してきていると思うので、定例研のあり方は、変えていってもよいと思う。今年度、地区講習会でも、他団体の研修でもリモートという方法のよさが確認できた。今後、コロナでなくなっても活用できそう。
- 講師や受講者の負担軽減を考え、講演会・総会はリモートを使った方法を検討したい。2020 年夏のゲーム依存の地区講習会(YouTube 開催)が良かった。
- 感染症予防を考えると、全員が集まる研修会は難しい。
- コロナ禍の状況下では、インターネットでの配信が一番だと思います。
- 講演会の多くは参加費がかかるため、定例研で著名人の講演が聞けるとありがたい。
- 休日だと参加が難しい職員が多いため、地区講習会は、平日に行えるとありがたい。
- 全県で情報交換できる貴重な場であるので、ぜひ情報交換をメインにしていきたい。
- 学齢の先生方と同じ研修に参加し、意見を交換できる研究会の存在は大変ありがたく思う。
- 近年、定例研以外の地区講習会等も平日開催が増えてうれしく思っていたところだが、平日開催が難しいのであれば、地区講習会に関しては夜、平日、土日等様々なパターンでオンライン開催にすることを検討しても良いかと思う。
- ありがたい研修を受けたいので、できるだけ引き続きの定例研開催をお願いしたいです。

#### 【組織運営に関係することについて】

- 今後の組織を考える時、政令市や規模の大きい市と、設置校が1校で担当者が1,2名の市では状況が異なる。県内のどの教室でも質の高い指導を行えるように、「横のつながり」は大切にしないでほしい。静岡市でも言語研・発達研・主任会・近隣校研修があればこそ深まっているものがある。特に東部地区は小さい市が多いので、今後の静岡言研を考えていくには、政令市でない地域の意見が重要。
- 会の運営を補助金に頼らない体制にするため、定例研の回数を現在の3回から年2回に減らしていくことを検討したい。その際の定例研の内容は、著名人の講演会と、運営委員会、総会(全大会)と考

える。

- 番町の事務局の先生方、大変な一年間をありがとうございました。事務局の先生方ほどではないのですが、少しばかり困難な点がありました。今年度、地区講習会会計で関わらせていただき各地区事務局長さんや担当校の先生方との意思の疎通に苦慮しました。できれば運営委員会を対面で行う機会を設けることができればありがたいと思いました。
- 静言研の組織の詳細がわからないこと、それが細部にまで浸透していない、そこに問題があるのではないかと改めて感じました。
- 幼児担当者として関与はしたいと思うが、勤務時間が限られている、ネット環境が整っていない状況では難しいと感じることが多いです。
- 幼言においては、ネットの環境が整っておらず、静言研の先生からも市に対して是非お声がけいただきたいです。
- 事務局の方々には感謝しております。幼児担当も常に学ぶ必要があることは痛感していますが、あえて時短勤務という選択をして働いているため、役職に就き、長時間費やさなければならないのは負担に感じます。
- 幼児としては主導することはできないと思いますが、明確な指示があれば協力する気持ちも体力も十分にありますので、お願いいたします。

#### 【補助金・会費について】

- 補助金を無くすとあったが、辞退するということ？有効に使えばいいと思う。
- 補助金は静言研でなく、各市教委に分配でもいいが、補助金なしで、定例研だけ、しかも回数減らすでは、研究会としての魅力がなくなる。子供会やPTAと一緒に、存在を考える過渡期ではあるが、簡単に方向を変えてはいけないと思う。補助金に、運営の費用が掛かることを認めてもらい、静言研を運営するポジションがあればいいのになと思う。教職員組合だって、仕事の大変な役職の方は、学校の仕事を軽減・無にしてやっている。規模は違ってもイメージは、そんなだろう。と、思う。
- 補助金に頼らず、3000円の会費で運営できる研修会にしていきたい。
- ②の具体的な提案に賛成します。担当者の思いに差があるという問題に対しては、幼児担当者としては“幼児言語教室に勤務する＝静言研に入会”ではなく、任意の入会にして、補助金も教室に均等に分配するのではなく、各会員に支給する方法を提案したいと思います。

#### 【その他】

- 寺谷校長ほか、重鎮の辞めた後の活用・ポジションというか、お願いをお願いしたい。
- 「子供が必要なときに身近なところで適切な質の高い教育を、負担がかからずに自由意思で受けられる教育の充実に向けて要望書の作成や働きかけをしてくださっていることがとても有難い。
- 調査対策については、市町に要望をあげることがまずスタートであることから考えると、アンケートの結果分析を部でやっていただき、それを要望書としてまとめ市町にあげていくかは、市町に任せるといっていいのではないかと思います。

## 2. 紙上発表してくださった先生方の実践についての意見・感想

### ① 構音 静岡市立清水浜田小学校 村田奈緒子 先生

- 自分は発達障害通級であるが、村田先生が「本人が興味をもつ/もたない」で教材を整理し、興味をもたない物は出番を待たせるという思考、また、各教材の意図の整理がとても勉強になった。(教材教具の豊富さも素晴らしいと思ったが、それを目的と表れと考察でまとめた表がとても参考になる)
- 入級時の教育相談や在籍校訪問の重要性を考えさせられました。子どもが外に見せていること(姿)の理由を「なぜ？」と考えるところを大切にしたいと思います。みとり、見立てです。それは、構音のつまずきで来る子どもたちだけではないです。通級の指導は、子どもにとっては自分の通う学校ではない場所で限られた時間の中での関わりなので、とても難しいですが、力をつけていきたいです。
- 先生の教材を直接見せていただきたかったです。
- 「〇〇くんのことおしえてね」は、何か参考になるものがあつたのでしょうか？自作でしょうか？教えていただきたかったです。内容とプロフィールグラフがとても興味深かったです。子どもと一緒に、成果を喜べるツールとして使えそうです。
- 「よく見て、じっくり寄り添う。」という大切な視点をいかに掘り進めていくのかが順を追って示された実践と感じた。自分自身の実践と照らし合わせ、新たな示唆を得ることができた。
- その子の「氷山の下」を考えることは、障害種に関わらず基本であるので、それを大切にしたい実践から学ぶところが大きかった。
- 「変容を見る」ことを、感覚的にとらえず数値化視覚化して共有するのが素晴らしい。
- 児童の様子を定量化するところ、観察から見取るところなど、大変細やかなアセスメントのもと指導されていると感じた。その中でも変わらず児童の想いを軸に愛情持って接している様子が素晴らしいと感じた。
- 教材が、カラフルで魅力的だった。
- 初めに提案した内容から随分整理しわかりやすい報告に仕上がっていた。構音障害の背景にあるものを探り、子どもの興味関心という視点を大事にし、また、子どもの意欲・態度を自己評価の形で示したことで、教師側だけのアプローチに偏らない実践になっており、素晴らしいと思った。
- P6「彼の苦手意識や自己肯定感の変容を客観的に見る手立てとして、勉強、運動、自分、友達の4観点の意識調査「Aくんのことおしえてね」を作ってみた。」と、あるが、何を参考にして作ったのか。どこからの引用なのか。教えてほしい。
- 当初、出来なさを知的の低さが原因と考えていたが、多面的に捉え直し、自分・教師中心の指導から、この思いに寄り添った指導に転換したことで変容がみられてきたと思う。できる場面をたくさん見ていると、頑なだった親も変わってくるので、子どもの得意を活かした指導をするために自分と異なる視点をたくさん見つけていってください。
- 途中、顔写真のぼかしがないものがありました。
- 少し好きなものが入るとその子の意欲が上がる。工夫の積み重ねが大切なのだと感じました。
- 児童の困難さの背景を探ること、個々に応じた教材について試行錯誤する過程等、私たちも続けていきたいと思います。どんなに手を尽くしてもうまくいかないこともあります。その時こそチャンスだと思います。子どもや保護者から得る物も大きいです。助けられることも。ありがとうございました。
- 発音の誤りの奥にあるその子の特性や要因を考え、それを基に指導の在り方を再検討してアプロー

ちしていくこと、本当に大切ですね。

- 冰山モデル、とても大事な考え方だと思います。表面の表ればかりに着目するのではなく、見えない部分にどんな困りがあるのかを想像し、適切な支援をするのが通級や担任に求められる力だと思います。
- 児童の変容が、五角形のグラフでとてもわかりやすくまとめられていました。
- 私も言語通級担当になった当初は、構音指導だけに力を入れていて隠れている部分への働きかけが大切だということに気付かず悩んでいた。好きなこと(TVのCMに出る「スーモ」)を教材に使って楽しみながら構音訓練ができて良かったと思う。私は、静岡鉄道の駅名を使ってトレーニングした。
- 子どもの変化のデータを取りグラフ化したことで説得力のある素晴らしい内容だと思います。また、「よく見て、じっくり寄り添う」姿勢は中学校通級でも同じだと思います。子どもが安心して困り感を伝えられる信頼関係が先生と子どもの間にあるのだと思いました。
- 幼児期に構音指導を始めるにあたり、正しい発音を身に付けるのと同時に、その子が「何が好き」で「何ができるのか」を見つけることの大切さを感じています。それにはまず、子どもと保護者に寄り添い、子どもを理解しようと努力し、「やった!」「できた!」「またやりたい!」の意欲もてる指導を目指していきたいです。
- 構音指導だけを行うのではなく、発音の奥に隠れている要因(学習への苦手意識、自己肯定感の低さなど)への働きかけの具体的方法は、幼言の指導でも取り入れたい例が多くあり、とても参考になった。単調になりがちな構音指導も、子どもをよく見て、じっくり寄り添うことの重要性を改めて考える機会となった。子どもが自分に自信を持ち、生き生き生活できるような支援ができるよう、これからも考えたい。
- 小学校の通級指導と幼児の指導はやはり共通する点が多いと感じた。“楽しい”“やりたい”と感ずることで伸びていくと思う。嫌がることは無理せず、チラ見せして取り組みやすい教材から指導している。今後の参考になることばかりだった。
- その子の課題に興味を合わせた構音指導のアイデアをたくさん提示していただき、参考にしたいと思った。
- 氷山の一角…私たちは水面下のその課題にどうアプローチし、寄り添い、伴走していくか、常に考えたい。
- 「その子にあった指導を見つけることが大切」と言われますが、実際、どこに何の力を貸し、支えるのかを見つけられないと方向性が立てられず、その先の「成果」「共有」へと繋げられません。困難さや課題の多い子はポイントとなる部分を見つけることが大変なのですが、村田先生のとても丁寧な整理付けとアプローチをつくられていたこと、本人だけでなく関わる大人にも指導を通して気づきを与え、わかり合うきっかけ作りになっていたことが勉強になりました。「手応え」伴に走る者同士のエネルギーになりますよね。伴に楽しく、互いの走る目的を達成する指導を進めていきたいと改めて思いました。
- 構音以外の課題については“考慮しながら”指導をしていることが多かったのですが、“並行して”課題に取り組むことが有効であることがよくわかりました。幼児でも構音指導を受けに来ている子は、園生活において自信を持つことができないことが多いという印象をよく受けます。A児に対する意識調査では、構音指導を通して自己肯定感が高まっていることが伺え、構音だけにとらわれずに、子どもにじっくりと寄り添うことを大切にして指導を進めていこうと思いました。

## ②言語発達遅滞 富士宮市立療育支援センター 土谷 瑞季 先生

- 支援を要する(と思われる)児童生徒の保護者の心情への寄り添いやフォローは、通級担当として(通級でなくとも支援児童に関わる職として)欠かせないし、保護者のタイプによっては関わり方に担当として悩むことも多い。土谷先生の実践を読んで、保護者が受容するまでの過程に冷静に向き合い焦らず対応されていたことを、自分自身も実践していきたいと思った。
- 指導回数がとれない中で、子どもの見立てや保護者の受容についてとても丁寧に関わっておられると思いました。先生が指導時間だけでなく、いかに日常を大切に思い、そこに生かせることやその中での変容を大切に扱っておられることも分かりました。指導の計画の立て方や情報提供のタイミングなど、ご苦労されたことや工夫されたことを詳しくうかがいたかったです。グループ以上に個別での関わりはとても気をつかうと思います。でも、幼児期は特に、子どもにも保護者にも個別に関わることを忘れてはいけないと思いました。
- このお母さんの応援団はその後増えたのでしょうか？支えてくれる人ができ、お母さんもヘルプを出せる相手がいてくれたらいいなと思います。
- 先生のお立場や経験されている年数なども教えていただけるとよかったです。丁寧な関わりはどのように学ばれたのか知りたかったです。
- 対子どもと同じ位(あるいはそれ以上の場合もある)に、保護者へのフォローがとても大切だということを、実践を読んで改めて実感した。
- 保護者への対応について、子どもの状態と関連させて捉え支援していくことの重要性を改めて感じた。揺れ動く保護者の気持ちを認めつつも、客観的な情報を提供していくことも必要で、その匙加減の難しさも感じた。
- 適応期・拒否期・混迷期、と、保護者や療育全般を的確に捉えられていた。今後自分も参考にさせていただきたい。保護者支援について学びました。
- 保護者に寄り添うとはどういうことなのか、その具体例を知ることができました。自分の保護者との関わり方にも生かしたいと思います。
- 「保護者の不安や悩みに耳を傾け寄り添うこと」は通級担当の大切な役割だと共感しました。保護者の心理的な負担感や困難感を軽減するために、実態に応じた働きかけをし、具体的な助言や支援を行うこと、将来の見通しが持ちやすくなるような情報提供をすることを意識していこうと思いました。
- 保護者支援の大切さを改めて感じた。保護者と子供の状態は常にリンクしているため、その時々々の状況をふまえて適切な支援を行っていくことは重要である。基本的なスタンス「受け止める」これは自分自身も大切にしていきたい。
- 母親の精神状態が子供の気持ちに大きく影響することがよく分かった。就学前は特に顕著に表れるのだろう。子供の様子をしっかりとアセスメントすること、保護者の決定には肯定も否定もしないで決定した経緯や思いをよく聞きながら検討すべきことを促す力を身につけたいと思った。
- 拒否期、適応期Ⅰ、混迷期、適応期Ⅱという流れで支援や指導をしたことで、保護者の不安や混乱にも焦ることなく寄り添えたのだと思いました。「傾聴」「寄り添う」は、保護者支援の大事な要素だと思います。
- 「保護者自身の支援をすることも結果的には子どもの成長に繋がること」保護者、在籍学級担任への支援も欠かせないと考えている。
- まとめで、書かれているように子どもの将来の見通しをもつことが保護者の安心感につながるとい

うことは、中学校通級担当として実感しています。そのために支援者として必要な情報を提供できるように努めていくことが必要だと思います。

- 「子どもが変われば親が変わる。親が変われば子どもが変わる」と言われる通り、親の心の安定が子どもの心の安定につながると思います。特に子育てに不安を抱える保護者には傾聴の姿勢で接するとともに、気持ちの整理を促せる関わりが大切だと思います。そして、担当指導員のことばに耳を傾けてもらえるよう、互いの信頼関係も築いていきたいと思いました。
- 保護者の発達に関する悩みは、常に揺れ動いている傾向に有り、特に就学先についての親の不安が、子どもの情緒に直結するケースが多い。保護者の気持ちを受容し、支援していくことの必要性を現場で感じており、日々心がけたいと改めて思った。
- 担当してきた親子が思い浮かんだ。子どもの指導も大切だが、保護者支援が重要であると感じていたので共感できた。
- お子さん同様、お母さんの気持ちに寄り添い、一緒に考えていくことが大切だと改めて気づいた。
- 親の思いで精神状態は思った以上に子に伝わると感じている。まずは保護者の心を解くこと、というケースも多いと感じる。
- 保護者支援は毎回本当に悩む問題です。母の気持ちが穏やかだと、子どもの気持ちも穏やかで、子どもは敏感に母の気持ちを察して生活し、相互に影響し合っている様子がよくわかります。保護者の気持ちを安定に導いていけるよう、指導者の私たちは保護者の思いを傾聴していくことの大切さを改めて感じました。そして母の今の気持ちを受け止め、子どもの状態に合わせた働きかけや具体的な助言の支援を行い、見通しがもてるような今後の情報提供をすることを頭に置いて、これからの指導にあたっていきたいと思いました。
- 年長児は就学先を決定する時期であるため、この例のように秋頃は入室する度に気持ちが大きく揺れ動いている保護者と話をする機会が何度かありました。母親の言葉からは、土谷先生の事例のように、様々な視点からの困りごとが発せられることが多く、まずは「母親の気持ちの整理」をすることの重要性を感じました。客観的な視点で物事を整理し、見立てていく力が必要だと思いました。

### ③LD・ADHD 浜松市立神久呂中学校 井口亜由美 先生

- 自校通級とはいえ、小→中→高と移行支援が支援として形を成すことができるという実践に移行支援とは 立ち止まる機会を与えられたと思います。移行支援のすべてが誰もが納得いく形になることは難しいとは思いますが、今目の前の課題や特性がどう先に影響したり結びついたりしていくのか、また、どういう選択肢やリソースがあるのかを、小学校通級でも念頭に置きながら関わることは大切だと思います。
- 中学校通級は、高校への進学が大きく関わってくるため、それ以前に小学校通級での支援の在り方も重要になってくるなと感じた。在籍校での課題から、これからのその子の人生でどんな支援が必要になるか見通す力が必要になってくると思った。
- 中学校で学ぶことを見通して、小学校の段階でどこまで指導したらよいのか、指導目標や指導内容を考え直したいと思いました。自分のことが分かり、進路選択にそれを生かせるように、ミスマッチが起きないように、親子共々に情報提供していきたいです。先生の、子どもの特性を理解した上でのご指導を学ばせていただきました。
- 石川誠先生が個人的に企画してくださった zoom 研修で、先生のお話を聞かせていただいたのですが、静言研の会員だけでなく東海四県大会でみなさんに聞いていただきたかったです。
- 「3年間を見通した」とありますが、井口先生はその先まで見通して、中学の通級指導の重要性（その生徒の人生に対しての）を感じた。また、教科担任制であるため、通級担当のコーディネート力もキーポイントで、中学校の担当者の専門性の高さがすごい。小学校担当者も学びたい。
- 以前、会報で紹介されていた教材について、具体的な実践で理解することができた。
- 井口先生のご指導は、中学の 3 年間だけでなく、進学や就職して働くということから逆算してのものであった。まさに生徒の自立を考えたご指導であり、感激した。小学校通級も、中学で指導すべきことの土台となることは何かを考えて指導にあたりたい。
- 中学校では受験があるため、その子がよりよい人生を送ることができるために進路選択も含め必要な力を考えて指導していくことが大切だと思った。小学校の立場からでは、中学校への引き継ぎの働きかけはもちろん、担任と連携・協働がとても大切だと思う。中学に行かせっぱなしにせず、中学進学後も踏まえて、高学年の指導を考えていきたい。また、通級児が中学・高校とどのように過ごしていくか、通級担当として知っておくことだと思った。
- 自己理解、自己肯定感を育むためには、小、中、高の連携が必要であることを感じた。発達凸凹のある生徒への関わり方を通して、担任、通級担当の役割は大きいと感じた。
- 中学の切実な課題である進路について教えていただきました。事例児には、ICT 機器で読み書きのフォローもできたのではないかと思います。
- 教室内では対人関係の問題ばかりに目が行きがちですが、教科の学力については小学校からの移行支援も含めて大切にしなければいけないと思いました。
- 似たような児童の顔が浮かぶほど、具体的な実践でした。将来を見据えた指導、支援、「担任(教科担当・部活動顧問)との橋渡し役」は、小学校通級も同様だと思いました。最も大切な指導内容として「自己理解」を挙げ「自己理解を深めた結果、ダメな自分ばかり自覚するのでは本末転倒。自己理解しないで自己肯定感ばかりが肥大すれば独りよがりになる。自己理解とともに自己肯定感をバランスよく育むことが大切だ。」と自己理解の指導をするにあたって大きな示唆をいただきました。
- 進路の選択に必要なこととして挙げられた 8 つの項目は参考になった。特に①の自己理解は他の②～⑧につながる根幹の部分でもあり、適切な自己理解が必要になってくると思われる。自校通級の強みを生かした実践、参考になりました。

- 生活振り返りシート、漢字書き取りプリントなど、指導が人間関係トラブルの減少、求められる学力につながっているのだと感じた。これならやれる！というものを見つけ、他教科用語でも活用することで自信につながる、自己理解と自己肯定感を育むための通級の役割について考える良い機会になった。
- 卒業後の児童、生徒にアンケートをとり、指導の成果と課題を検証していくことは大事だと思いました。
- 進路選択に必要なことを具体的に8点にまとめて指導計画の中に記載されていたので、何をねらった指導なのかがわかりやすいと思いました。
- パワーポイントの資料からの読み取りは難しいと感じた。
- 進路選択を控える中学校3年生の指導について、3年間を通した取り組みが見られて良かった。特に、通級担当が生徒と担任の先生や教科担任との間に入り、生徒の学習環境や生活環境を調整していくことの大切さと必要性を改めて実感した。
- 通級指導では「主訴」に基づく指導が基本となると思う。対象生徒はどのような主訴で指導していたか知りたい
- 通級担当だけでなく、通級設置校ではない小学校や高校の先生方にも知りたい内容だと思った。小中高の通級のつながりを大切にしていきたい。
- 自己肯定感の低い生徒が適切な自己理解をすることで、自分の課題ときちんと向き合って中学を卒業させるのが中学通級の役割の一つだと思った。
- 中学校生活の中で自己認知力が身に付いていることが進路選択の際必要になってくると感じた。また、認知の幅が広がることでできることが増えると思った。
- 同じ中学校通級担当として、「自己認知」を育てることが最も必要なことだと考えています。井口先生の実践を読ませていただき、今まで自分たちが実践してきた取り組みが間違えではなかったと後押ししていただいたようで嬉しく思いました。これからも情報交換をよろしくお願いします。ありがとうございました。
- 幼児の担当をしていると、中学生の進路決定については遠い先のことのように感じてしまいます。しかし、①小さくても良いので自己決定をする ②自己肯定感を下げない ③身近な大人との信頼関係を築く経験をすること これらのことは幼児期の中に明らかな成果を出すことはできませんが、これから先の人生の土台作りとして心がけていきたいと思いました。
- 通級していた子どもの進学先等での様子がわかった。井口先生のアセスメントが素晴らしいと感じた。
- 気持ちのコントロールのためには、自己理解が大切で、自己肯定感のバランスが必要であるということが分かり、中学という多感な時期に、通級の先生方はその子を支える存在としてとても重要だと感じた。
- 幼児でも、先の進路の見通しに悩まれている方も多く、参考になった。進路という大きな決断に、通級の先生がまた違った視点で寄り添ってもらえるのは大きな力になると感じた。
- 中学校の進路は、幼・小とまた違い、多岐に渡り枝分かれしているため、自己理解することが大切だと勉強になりました。社会性だけでなく、自分に合う学習方法や学力を理解していくためには、早い時期から支援につながる大切だと改めて分かりました。
- 自分自身が目標として進む道を具体的に絞ることで前向きに取り組めると学びました。
- 得意なこと、苦手なこともバランス良く知ることが、この先を良い方向へ変えていくのだと感じました。

#### ④教室経営 掛川市立中央小学校 藤田 順子 先生

- 藤田先生の、担当者としての願いと仮設、そのための方法3つは、今の自分にとっての良き戒めと  
いか目指す姿だと思いました。コロナ渦でない年であれば、先生の豊富なご経験を直接伺いたか  
ったし、また、先生の実践やお話に触れる機会の多い掛川地区の皆さんが羨ましいと思いました。
- 通級担当者として自分の指導力を高めることだけでなく、吸収したものを学校や地域に還元してい  
こうとしながら取り組んできた先生を手本に、私たち指導者は心して進まなければいけないと感じ  
た。
- 「はじめに」に書かれた先生の思いを読んでぐっとききました。
- 先日参加した会議の中で、「あなた(通級の先生)は(子どもや保護者、関わる人たちに)役立ってい  
るんですか？」と問われました。「役に立ちたいと思っています。」と答えましたが、その後問われた  
言葉が忘れられずにいます。やはり、そういう問いを常に自らに問い続けていきたいと思いました  
し、そのような思いで通級教室を見ている方が必ずいるんだなと思いました。
- 藤田先生には担当者としての「学びの姿」を教えてくださいたいと思っています。私もそうなりたいと思ってい  
ます。今の自分に足りないことも分かりました。後に続く方たちに、この仕事の魅力を少しでも伝え  
ていけるように自己研鑽です！
- 静言研の活動にもご理解やご協力をいただいています。「事務局は大変だに。やると分かるだから。」  
「親も親の会も大切にしなきゃならんだよ。」と言っていたとき、頑張ろうと思うことが何度もありま  
した。感謝しています。今後ともご指導よろしくお願ひします。
- 掛川の発達通級を牽引されてきた藤田先生の思いが伝わってきた。プレゼン資料で、先生の実践の  
すばらしい内容をより皆さんに紹介できたらと思った。例えば「MIM 給食って何？」とか。
- 一人の担当としてだけでなく、学校や他の担当者のためを考えての実践に感動しました。通級担  
う役割の広さや重要性を改めて感じた。
- 『子ども理解を深めたり、特別支援や通級の理解啓発をしたりするために、・年に1回の講演会の  
開催 ・研修会での講話 ・通級通信の発行 等』とありました。まさに通級を率いる教師として、為  
すべきことだと思います。熱い語りをぜひお聴きしたかったです。
- 藤田先生の発表は、何度も拝見しました。いつもパワフルで、真に子どもと向き合う姿勢に頭が下  
がる思いです。専門家としての意識の高さに対し尊敬し、毎回学ばせていただいています。ありが  
うございました。
- 「困り感をもつ子供、関わる大人の役に立てる担当になりたい」という願いに共感した。今自分自身  
に一番必要なものは確かなアセスメントができること、そこができなければ連携のコーディネートも  
次世代につなぐこともできないと感じた。学び、子供をよく見る力をつけたいと思った。
- 意見交換したかったご本人の意向に沿えなくて残念でした。今後、教室訪問してみたいです。
- 「MIM指導法を生かした読み書き支援」  
私も通級教室で使っている教材を担当参観の時に紹介して学級でも使っていたらいい。
- 通級担当という立場を生かして連携(様々な人がかかわる)をすることで、子どもの困り感が軽減し  
ていくことが改めて分かりました。「通級という立場を生かす」という視点をもって日々の指導を行  
いたいと思いました。
- 今、目の前にいる様々な困り感を持った子どもの専門家になるには、一人の力や努力ではうまくい  
かない。それには、周囲の協力や情報の共有など、多くの目や手で培っていくものだと思います。

その子の専門家になれるようがんばっていきたいと思います。

- 通級担当だからこそできること＝「特別支援のその子の専門家」であることが、困り感をもつ子どもたちと関わる大人の支援になること。それらを達成するための具体的施策、実践内容を知ることができた。幼言での教室経営にも生かしていきたい。
- 「チーム学校」の一員として、子に寄り添っていくことが大切だと思った。また地域や他機関(資源)と関わっていくことも必要だと思う。私たちの教室は開設 1 年目なので、これからもつながりを作っていきたい。
- MIM 給食について、勉強不足で分からなかった。
- 先生の熱い気持ちがよく伝わりました。100 人以上のお子さんと保護者様にも伝わっていると思います。私どもの教室でも、学齢の先生や幼稚園と密にやりとりをするようにしました。園と保護者と担当の連携がとても大切だと実感しております。小さな悩みや迷いも教室内で相談し合っていきます。ありがとうございました。
- 教室を運営されていくのに必要なこと、出来ることを考え、実践していくために、いろいろ考え工夫されてきたことがわかりました。他機関との連携をとっていくこと、自分自身のスキルアップも大事なことなど、改めて感じました。通級してくる子どもたちの様子をよく観察し、何が必要なのか考えていきたいと思います。

## 1. 静言研の在り方について

### 〈回数や運営形式について〉

- 他地区の発表を聞く場は他になく新たに学ぶ機会が少なくなるのは残念。東中西それぞれの地区での定例研がもてることもいいかと思う。
- 年3回の定例研は必要。地区別研修には限界がある。実践、情報交換など静岡県全体のボトムアップにつながる。担当者、教室の実力の向上を目指す。
- 当分の間、一堂に会する研修会を行うことは難しく、定例研の回数を年に1回にしていくことや紙上発表にするのは不可欠。また、地区講習会の地区も小さくしていくことが望ましい。
- 定例研は中学通級担当者としては思春期部会があり、救われた。横のつながりも作れたため、分科会の話し合いは存続してほしい。
- 定例研の回数は年に2回（前期・後期）できたらありがたい。その場合、ローテーションが3年で2回回ってくる。今年度から通級担当になったため、同じ立場の担当者との意見交換の場がほしい。
- 通級教室、担当者が急激に増え、静言研主催の定例研を県教委主催の研修に移行していく必要がある。定例研の会場運営の担当者の負担が大きい。県教委主催となった場合は幼児担当者が参加できなくなる可能性があり、県教委と交渉していただき、幼児担当者も参加できるような研修会に変えていきたい。
- 定例研について年1回で東中西でローテーションしていくことも考えるべきだと思う。
- 静言研は持続してほしい。専門性を要する教育だが、実践を学ぶ機会は多くない。持続可能となるような方向で検討していただきたい。
- 定例研は例年通り3回やってほしい。初めて担当する立場としては定例研ができなくて残念
- 今まで地区の特別支援の研修や方向性を部長という立場で取り組んできたが静言研の存在を地区の特別支援教育部は把握していなかったのが現状だとよくわかった。通級の価値が高まり、通常級を巻き込んだ指導が必要なのであえて広げず地区の特別支援教育部との融合が必要かと思った。

### 〈その他意見〉

- 幼児担当者は基本的に1年ごとの契約なので関与の仕方が難しい。
- 分科会の発表原稿を今回のようなデータ送付にするならば、会員必携のデータをPDFではなくワードにしてほしい。住所を手打ちするのが大変だった。
- 県とのつながりは絶対必要。各市町で教室の増設新設定数の要望はしていくのだが、静言研としても要請し、強力に進めていった方がよい。
- 管理職の理解を得ることが難しく、静言研から校長へ直接アプローチするのはどうだろうか。
- 所属感を出すために、静教研の特別支援教育部に通級部を設置して所属する。
- 幼児は会計年度任用職員のため関与することは相当な負担になる。
- 定例研は他地区の担当者とのつながりや実践を知るためにも継続したい。
- 調査対策について 県のつながりを保つという会長の意見に賛成。志太榛原地区では言語の新任研が開かれなかったので静岡や浜松の地区研修会へ参加させていただいた。そのおかげで学ぶ機会がもたれ、ことばの教室をスタートできた。ぜひ継続してほしい。

## 2. 定例研 発表への意見

### 〈発表について〉

- ・(構音) 本年度同じようなお子さんを担当したのでとても共感した。音だけの指導をしていても伸びないので、隠れている部分への働きかけを大事にしたいと思った。教材も使っていきたい。
- ・(中学通級) 進路選択、受験準備、進学先決定後の心構えなど、積極的で主体的な進路指導はしないけれども、生徒の特性に合った進路支援は在籍校や家庭と連携して行っている。その延長上として進学先での様子をアンケートで聞き取りするという井口先生の実践はとても必要であると思う。そのアンケートをもとに再度通級としての役割を考えていることが素晴らしい。結局「自己理解(メタ認知)」ということに落ち着いているが、その根拠となる事例がきちんと示されており、説得力がある。私が指導をする上での土台ができたと感じている。
- ・パワーポイントの発表は資料も兼ねていてわかりやすかった。
- ・MIM研修に興味がある。私たちの市でもやりたい。MIM給食とは何ですか？
- ・親のメンタルと子どもの情緒に関連がある事例を目の当たりにできた。
- ・氷山で例えてレポートにまとめていらっしゃるのが新鮮でわかりやすかった。
- ・子どもの内面への配慮として指導の方向性や教材、教具の工夫などじっくり練られた指導の積み重ねていることに頭が上がる思いがした。今後の指導に生かしていきたい。
- ・清水 村田先生の実践 構音指導をする際にセオリー通りだと行き詰まることがある。村田先生の実践にあるような主訴以外の隠れた部分に目を向けることが大切だと思う。体の使い方のぎこちなさやコントロールが上手いかない子、舌の使い方がうまく行かない子今までの言語環境から「言葉」の必要性を感じない子など様々。その子の見えない面に目を向け、興味関心のあることから意欲を引き出し指導に当たりたいと思う。

### 〈紙上発表の形式について〉

- ・県全体ができなかったら地区別研修会を考える。発表者がいたらその発表を中心に話し合う。発表者がいなければ各自の実践発表会を行う。
- ・全分科会の資料をもらうことができ、勉強になった。
- ・紙上発表になったが、発表者の実践が各校に伝達できたのは大変良かった。定例研が開催できない場合本年度のように紙上発表が続けていければと思う。
- ・実践発表はさっそく自分の指導に使えるものもあり、大変参考になった。いろいろな分科会の発表を見ることができてよかった。
- ・原稿の取りまとめ、データのコピー、宛名を用意し郵送がかなり手間だった。データで送ることができればよかった。データなら通級がない学校へも送ることができ、通級に通っている子どもがいれば参考になると思う。
- ・紙上発表は会員のみ見れるようにしHP上に載せることはできなかったのか。全教室分、CDに落とし、袋詰めを行ったが大変だった。
- ・発表者の資料がCDで送られてきたこと、全員の資料を読ませてもらったことは良かったと思う。
- ・今後は教室数も増え、会場さがしも難しくなる。コロナ対応にかかわらず会の持ち方を検討する必要があると思う。

(地区としての意見にまとめられません。あげられた意見を報告します。)

## 1 静言研について

### ①今後のあり方について

「持続可能な静言研を考えていきたい」の考え方に賛成。

・会費だけの運営になると

→大きな講演会が不可能になる。土日開催が中心になる。

→よほどの向上心がないと参加しなくなる。結果として指導力が下がる。  
県実施の悉皆研修ではあまり役に立たない。

定例研は平日開催ゆえに参加率も高い。

※やはりこれまでの定例研から学ぶことが多かったと感じる。

※孤独になりがちな通級担当にとって、交流することが力になっている。

※行政の理解、校長の理解のためにも、設置校長会、要望活動、補助金は継続できたらよいが。実施の方法で検討してほしい。

※幼児は補助金に頼っている。市町から教材費はないのでとてもありがたい。

★地区講習会の継続発展がよいか。

### ②講演会について

・やはり生で聞きたい。地区講習会だけではカバーできないのではないか。

ZOOM等で聞くだけでは研修を高められない段階の人もいる。

★講演は動画配信。その後 ZOOMなどで質問応答のやりとりができればいい。

★地区ごとに1カ所に集まれば担当も配信箇所が少なく楽ではないか。

### ③会費について

・今年度会費の3000円はできる限り教室へ還元できないか。

(教室のエアコンにつながり、手応えを感じる支出方法にできるとよい)

・来年度も静言研に関わる場合はよいが、退職する方には返金できないか。

## 2 定例研 CD 発表について

・紙上発表のご準備ありがとうございました。

紙面だけでは伝えきれないものがあったと思う。

→意見交流できればよかった。生で聞く良さには変えられない。

○どの実践も担当者の熱い思いと高い専門性と見通しを持った指導の手立てが伝わってきた。幼児期から中学生までの事例だったので改めて指導

計画や支援計画の大切さを感じた。保護者の育児に寄り添う大切さも感じた。

○資料をコピーできるので見直すことができてよかった。

- ・ 検査をやれなくても確かなアセスメントの力をつけたい。
- ・ 合理的配慮について学び尚したい。
- ・ 次世代につなぐことは切実な課題

▲発表者は、労力の割にメリットが少ないのでは。

(勝手に使われると困るデータもある。個人情報には載せられない)

★東海4県に参加する方のみCD発表でどうか。

### 3 その他

日々事務局の先生方には大変お世話になっています。ありがとうございます。計り知れないご苦勞があると思います。本当にありがとうございます。

まだ日が浅く、静言研のことについていい加減な意見を言えないという意見もありました。これまでの流れがあつての静言研です。こうすればという画期的な案を出せませんが、各地区の意見を聞きながらよりよい方向が見つかるといいなと思います。よろしくお願いします。

小笠・掛川地区事務局

掛川市立西郷小学校 榛葉美哉子

## 西部地区事務局より

### ★★組織について 各教室の意見★★

#### ・ 定例研について、

- ・それぞれの分野の一線で活躍されている講師の方を呼んで、お話を聞くことができる機会なので、講師の方を吟味していただいて、年2回か3回は実施してほしい。
  - ・年3回のうち、構音指導で1回、言語発達・吃音・場面緘黙で2回、講演を計画していただけたらいいなと思っています。
  - ・浜松市幼児の言葉の教室担当者は地区内（西部）には全員参加ですが、中部・東部については旅費の制限がありどちらかしか参加できません。2回よりも3回あれば、参加したい講演や分科会等、選択の幅が広がるので、できれば3回実施してほしい。
  - ・定例研の回数については、できれば3回が望ましいが、現状を考えると3回は難しいと思う。
  - ・定例研について。著名人の講演を聴ける機会は担当者にとってとても貴重であり、数多くの研修に参加したい。一方で分科会の発表年3回は多いと感じる。分科会発表者の推薦は非常に難しく悩む。また、浜松市は旅費予算の関係で担当者が年3回の研修会に参加できないため、2回程度の開催でもよいかもかもしれない。
  - ・定例研を開催するに当たっては、負担が大きい。研修を各地区で充実させていくことを考えれば、定例研の回数は減らしていくのがよいと思う。有名な先生を招いての研修を、定例研としてではなく地区研として行い、県下の先生方にもお知らせして他地区からも希望者が参加していくのはどうだろうか。
  - ・定例研・・・第1回は総会を含め、中部地区で行ない、第2回は西部地区と東部地区で隔年にしたらどうか。  
分科会は1年に1回でもよいと思います。人数が少なければZOOMで情報交換会でもよいと思います。
  - ・平日だと遠隔地で開かれることもある定例会に3回とも参加するのは難しいと思います。近くで開かれる、地区講習会は参加しやすくありがたいので、今後も続けて欲しいです。
  - ・年度当初に行われる総会は、顔を合わせとして実施するのがよい。
  - ・通級以外の仕事も多く、学校を空けにくい現状ですので、特に遠方への出張は厳しいと感じています。定例研は年一度にして、スリム化していただけるとありがたいです。
  - ・旅費の関係もあるので、定例研は回数を減らしていてもよい。
  - ・全体で集まるのは、1回。そこで、実践発表などの分科会を開く。ただし、著名な方の講演は、2回程度は聞きたいので、それは、ズーム講演会で開いていただけるとありがたいです。
- (理由)
- ・実践発表をズームで実施すると、個人情報外部にも流れてしまうので、実践発表は、どこかで集まって、分科会形式で1回でいいと思う。
  - ・ズーム配信で講演会など聞きたいが、ズーム配信をサポートしていただける方が欲しい。そういったため（技術サポート）の費用を確保して欲しい。
- ・回数を減らすという意見は理解でき、意味があると思います。減った分は、オンラインでの発信を利用してはどうでしょうか。
  - ・定例研…オンラインでの開催でもよい気がします。
  - ・地区の講習会などは、オンライン研修会にすると、東部、中部、西部関係なく参加ができる。
  - ・講演会は、オンラインで行えるとよいと思います。オンラインであれば、年2回でも。
  - ・今年度はコロナ禍ということもあり、web研修会もありました。担当校の熱意を感じました。今後、web研修会が増えていくかもしれません。今回のノウハウを次に伝えてほしいと思いました。
  - ・浜松市は西部圏外への旅費が出づらくなっている現状があり、全県で集まらなくても、東部・西部・中部ごとの研修でよいと前任の校長から言われました。また、分科会での発表者を決める際、所属長の理解が得られない場合があります。
  - ・今まで、定例研の時に設置校長会が開催されていて、定例研は設置校長会開催のよい機会だった。管理職の理解を得るためには、設置校長会は絶対に必要。設置校長会が地区ごとに開催できる目途がたてば、定例研は年2回でもいいのかもしれない。
  - ・昨年、西部地区以外でしたが、定例研に教育委員会の担当者が参加していました。それぞれの地区の教育委員会の担当者に静言研への加入を進めていく（強制？）することが、組織への理解を得るには必要なのではないかと思います。
  - ・運営の大変さ、分科会提案者の選出、予算等、様々な問題があると思うので、運営委員会で十分な検討がされた決定に従う。
  - ・負担が大きいところがあるのなら定例研を1～2回にして、その分の研修を地区講習会でできるようにする。各地の講習会

に自由に行くことができれば幅広い研修ができると思う。

- ・土日に研修に行くことができないので、平日に出張で行くことができるのがうれしい。しかし、人数が多くなってきたので、運営する人は大変だと思うので、回数は少なくしても良いと思う。
- ・言語の研修ができる場が少ない。定例研でも地区講習会でもよいので、講演会で、吃音・言語・構音など一通り聞きたい。
- ・講師の講演会は、オンラインでできると思うが、すべてをオンラインで実施するのは難しいと思う。
- ・定例研をオンラインで開催するのは、担当校の負担が今の時点では大きいと思う。

## 地区講習会について

- ・地区講習会…内容によりますが、zoomやYou tubeなどを使って、スキルアップのため行ってほしいです。
- ・地区講習会に定例研でよんでいた講師の先生たちに来てもらいたい。
- ・構音・吃音・言語の研修会は、必ず実施してほしい。
- ・全国で活躍している先生たちも何回も来てほしいと言ってくれているので、継続的にきてもらい事例検討などもできると良いのではないかと。(たとえば、構音の西田立郎先生とか)
- ・積み上がっていくような毎年系統的な研修ができると良い。

## 校長会について

- ・校長会について  
浜松では、通級指導教室設置校の校長が集まるのは西部地区定例研時に行われる校長会の時だけということなので、今後も続けていく必要があると思う。しかし、今後の定例研の持ち方次第では、定例研とは別に行っていくのもよいと思う。
- ・3月の運営委員会に副会長の校長先生(新・旧)にも参加してもらえるとよいと思う。
- ・校長会で話し合われた内容の中で、担当者が知っていた方がよいことを教えてほしい。

## 地区区分けについて

- ・地区の区分けについて…現状で続けていただきたいと思います。
- ・地区区分けは、広範囲になってしまうので、今のままでいいと思う。たとえば、湖西市の岡崎小は、中部地区の学校と一緒に活動することになり地理的移動が大変になると思う。

## 加入状況について

- ・発達通級担当者の加入が少ない。加入のメリットが感じられないようである。みんなが加入して、みんなでやっていけるように考えていく必要がある。

## 世代交代について

- ・今まで中心となって活動してくださっていたベテランの先生方が大量に退職してしまう時期を迎える。特に言語通級担当は、担当者の平均年齢も、なかなか下がっていかない。担当者の計画的な育成は、大きな課題であると思う。ここには管理職の理解が必要。行政にも声を大にして要望していかないと、担当者の質の低下は免れないと思う。
- ・役職の引継ぎの際、50歳台後半の担当者が多いため、なかなか他の人に引き継げないという問題があると思います。存続のためには、長期的な計画が必要だと思います。

## 通級への理解・環境整備について

- ・本校には通級言語教室1、LD等教室1、幼児ことばの教室2教室がありますが、校内での通級指導教室への理解及び指導環境が整っていないと感じます。管理職の理解を得て、環境が整備されることが優先課題だと思っています。また、地区講習会や親の会などを運営するにあたり、幼児担当者の取り組む姿勢が消極的(親の会の役員は幼児ことばの教室からは出さない・非常勤職員である幼児担当は地区講習会等の静言研の活動は・・・など)なため、児童担当の負担が非常に大きいと感じています。幼児担当の意識改革及び協力体制が整備される組織作りが必要だと感じます。具体的な改善案が

なく、申し訳ありません。

運営委員会を構成する委員の先生方の負担が大きいので、組織を細分化し、多くの職員が役割分担して携わる形態でも良いのかと思います。

## 要望書について

- ・県へ伝えていくことは大事だが、市や町へ伝えていくことが、もっと必要だと思う。地域にあった要望の仕方を考えていく必要があると思う。
- ・調査対策については、アンケートは実施し、結果の分析を行うが、県への要望は負担にならない程度に少し変えていってもよいと思う。
- ・県への要望書提出の報告書の中に、5（1）の寺谷先生の「言語障害と発達障害という枠を変えることができれば・・・」という言葉があった。構音と吃音、発達障害を併せ持つ子が多くいるので、通級という枠組みの中でその子に必要な指導・支援を行う方がよいのではないかと感じる。枠組みを変えていくことを県へ要望していければと思う。
- ・通級指導教室の実態を伝えていくために県への要望書は、今まで通り継続していった方がよいと思う。ただ、政令指定都市での要望書については、負担があり、その成果も見えにくいのであれば、それぞれの市でどうしていくか見直してもよいと思う。

## 静言研の運営・その他

- ・事務局のある学校の先生方に、大変お世話になっていると感じています。ありがとうございます。
- ・「将来的には、会費でやっていける研究会にしていこう。」理由を教えてください。  
また、そうなったとき、(幼児) 補助金はなくなってしまうということでしょうか。その代わりに、各市町で同等に補助してくれる体制になるということでしょうか。今、幼児補助金は静言研に入っている私たちにとってとても大事なところですよ。
- ・今後、補助金の対象を「言語」だけでなく、「発達通級」にも広げていくことはできるのでしょうか。
- ・補助金でオンライン機器を購入したとのことですが、どのようなものを購入したのでしょうか？  
県事務局で保管とのことですが、それは、東・中・西部どこでも使えるのでしょうか。
- ・会費について、返金は現実無理とのことですが、理由を教えてください。浜松市の会員は、個人負担で払っています。  
東海四県に備えることは、反対です。この先実施できるかどうか分かりませんし、安易だと思います。  
何か購入の場合は、学校ごとか、各事務局保管できるものがよいです。
- ・具体的な提案がいくつかありますが、どういう理由でこの提案が出ているのかがわかりません。  
例：なぜ補助金に頼らない体制にしていこうのか、なぜ地区分けを静教研と同じにするのか、などそれが分かると、もう少し前向きな意見が伝えられると思います。
- ・静言研という団体を生かすことより、市、県での通級の組織の移行を検討していく段階にきているのではないのでしょうか  
西部、浜松、磐田、袋井、森地区は、加入されない方も増え、地区での研修も行わねばならず、指導以外の時間を静言研と地区での研修での両方にさくことになってきた。  
また、再任用での担当が始まり組織が組みづらくなっている。
- ・これだけの大きな金額を使って、講師を呼んだりすることができる場がない。研修を市でもやってくれているが、費用が少ないので、担当者への負担だけがが増えて、講師も身近な人になってしまう。
- ・やはり補助金を使わせてもらっていることは担当者の質の向上に役に立っています。会費だけでは、十分な研修ができないと思います。



## ★★実践発表への意見感想★★

- ・座ってられないというお子さんにまで、指導をされていてすごいと感じました。いろいろな方法を試しながら、その子に合う教材を準備し、指導していくことはとても労力がかかることだと思いました。
- ・いろいろな立場の方がいるシステムは、とてもいいと思いました。その子に応じて、全体でバックアップしていけると感じました。審査会もそういうシステムが理想だと思います。子供はもちろん、保護者支援も的確にできてくると感じました。
- ・言語通級教室であっても複合的な障害に対応する必要があることが分かり、自分たちが抱える問題点と同じだと感じ、共感できました。紙上発表という形でしたが、今までの発表と同じく参考になりました。
- ・新型コロナウイルス感染症のために様々な制約のある中、貴重な実践発表がとてもありがたかったです。今後の指導に生かしていきたいと思います。
- ・日頃、通級指導教室の役割や指導方法について迷うことが多いのですが、先生方の実践を読んで試行錯誤しながら工夫されていることが伝わってきて参考になりました。自己肯定感が下がらないように気をつけながら、児童の自己理解を進めることが大切だと感じました。「〇〇くんのことおしえて」のようなワークシートを使って児童の自己認識の変化を知るとも取り入れていきたいと思います。
- ・市立清水浜田小学校さつき教室、村田奈緒子先生の構音指導例がとても参考になりました。指導までの経緯、指導内容例を写真付きで説明してくださり、具体例として大変参考になりました。学び始めの子どもと同じく、目で見て聞いて真似てみて、徐々に指導に自分なりの工夫がなされていくのと思われまます。特に、村田先生も最初に述べられているように、通級の指導内容は、ほとんどの指導者にとって、未知の世界であると思われまます。具体例を開示していただくことは、次の指導者を育てていくことに非常に役立つと思います。特に発達関連の指導は、答えがはっきりしない面が多く、指導内容が個別に取り扱いされがちで、初めてこの世界に踏み込んだ人間には、イメージがつかめません。指導内容が正しいか否かに捕らわれず、指導例を沢山知ることができると、指導者の迷いも軽減されると思います。発表して下さった村田先生に感謝いたします。
- ・清水浜田小の村田先生…構音指導に工夫された教材教具が使われ、とても参考になりました。その子をもつ特性を考慮しながら指導計画を立てる必要性を実感しました。
- ・構音分科会 村田奈緒子先生 言葉の指導を行う上で、言葉の障害以外の課題が多いことに気付き、児童の実態に合わせた教材作りや指導が行われていることが素晴らしいと感じました。なによりも児童の気持ちに寄り添った指導が行われていると感じました。
- ・言語発達遅滞分科会 土谷瑞季先生 保護者と子どもの関係を長期間にわたって丁寧に看取り、切れ目のない支援をされていることが素晴らしいと思います。保護者にとってかけがえのない支援者になっていると感じました。
- ・教室経営分科会 藤田順子先生  
熱い思いをもって指導に当たっていらっしやると感じました。「確かなアセスメント」「コーディネート」「次世代につなぐ」どれも大切なことであり、自分も目標にしていきたいです。
- ・構音障害・・・子どもの「好き」を見つけることの大切さが分かった。また、冰山モデルや意識調査、分析のグラフが参考になった。
- ・保護者支援・・・保護者支援の重要性が改めて分かった。保護者と子どもの変動が期ごとに示された資料は分かりやすかった。
- ・進路選択・・・中学の通級指導を知るよい機会となった。事例では、担任や他の先生方の関わりが自己理解や自己肯定感につながったが、教員の特別支援教育に対する意識にはまだまだ差がある。意識を高めていくことが、担当者としての役割だと思う。
- ・つながり・・・「通級担当だからできる連携」「『次世代につなぐ』担当」という言葉が印象的で、まさに、そういう担当になれるように努力したい。
- ・今年度はコロナ禍ということもあり、web研修会もありました。担当校の熱意を感じました。今後、web研修会が増えていくかもしれません。今回のノウハウを次に伝えてほしいと思いました。

・神久呂中の井口先生の進路指導についての発表が大変参考になりました。特に「自己理解」の大切さについて、大いに共感しました。同じ浜松の中学校ですので、今後も情報を共有させていただきたいです。

・言葉の発達を抱えている子供の構音指導にあたっては、主訴とされる構音を見るだけでなく、背景にある隠れた部分への働きかけと並行して行うことで、自己肯定感が向上し、良い方向へと変化していくことが事例を通してよく分かりました。教材選びでは、本児がやってみたいと興味を持って取り組めたものがたくさん紹介されていて、大変参考になりました。

・普段の指導終了後、子供が待っている中で保護者となかなか大事な話ができない。改めて電話や相談日を作って話ができればいいが、保護者の御都合を考えるとなかなか難しい。言語相談などのように保護者とじっくり話し合うことができれば、指導についても保護者の考え方についてもよく分かり合うことができる。保護者とのつながりは不可欠で大事なことでと改めて思いました。

・第2回定例研 言語発達遅滞（寺谷先生）

遅滞のお子さんをかかえた母親の表れ、子どもの表れ、それに担当者がどのように関わっていたかが時期ごとに書かれていて分かりやすかった。似たようなケースがあるので、参考にしたいと感じた。

・ありがとうございました。

・神久呂中の井口先生…中学卒業後を見据えた実践で、未来の姿をイメージし、今何ができるか考えることが大切なことだと思いました。

ありがとうございました。

・実際の児童生徒の姿で支援の様子が伝えられている点が参考になった。

先輩の支援の手当てが、自分の担当している子で試してみようと思った。実障に使っている教材などを共有できると有難いと感じた。

・内容的に大変参考になるものが多かった。しかし、紙上発表では、やはり内容を十分に理解するのは難しいように感じる。

・せっかく素晴らしい内容なのに、何も発表者に伝えられないので、発表者に申し訳ない。

・大変申し訳ないのですが、やはり分科会に参加するのと、紙上でまとめられたものを読むのでは、実践への理解度が違うように感じました。大変な労力をつぎ込んでまとめてくださった実践ですが、やはり、紙に書いたものを読むだけだと、サラッと一度読み通すぐらいになってしまいました。分科会はやはり対面でやってこそであると思います。来年度以降も紙上発表になるようならば、やめてもよいのではないのでしょうか。

・今回紙上発表してくれた先生たちの発表をコロナの時期が過ぎたら実際にもう一度対面で聞いてみたいと思いました。

・構音分科会

構音障害を抱える子供の心理面にまで光を当てた研究で、感銘を受けました。まず、構音障害を目に見えないたくさんの問題の一角としてとらえていることが画期的であると感じました。構音障害の改善に丁寧に取り組むことが、対象児の全人的な成長につながるものが、氷山の図からも読み取ることができました。また、それぞれの構音指導が問題のどのレベルに対して行われているか、指導者が意識して行っていることも素晴らしいと思いました。

・言葉の遅れ分科会

保護者の不安に目を留める研究は、大変意義があることと思いました。特に幼児期、子供の人格はまだ未分化で母親のそれと分けがたいところがあり、無意識レベルでは母親が子供を飲み込んでいる場合もあるかもしれません。このような二者の関係を考えると、保護者の不安に焦点を当てた研究は、もっと行われてよいように思われます。

・LD・ADHD分科会

グレーと呼ばれる子供たちにとって、進路は大きな問題です。自分が所属する発達通級の保護者会でも、進路が毎年話題になります。こうした問題や悩みに焦点を当てて、道筋を示してくれた今回の発表は、担当者だけでなく、(もちろん、必要な部分をピックアップして) 保護者にも聞いてもらいたい貴重な発表だと思いました。

研究部

1 第3回定例研

- ・ 全国・県内のコロナ感染の状況を踏まえて、集合して研修を行うことは困難と判断。  
講演(坂本條樹先生) → 来年度研修会に延期。
- 分科会 → 分科会提案資料は第2回定例研と同様に CD-ROM を担当校(裾野西小から郵送(2月上旬予定))。

発音(富士・第一小 佐野卓信先生)  
遅れ(浜松・佐藤小 松井靖明先生)  
吃音(静岡・番町小 新井忍先生)  
LD等(藤枝・岡部小 永谷久美先生) 先生方、どうもありがとうございました。

2 令和3年度定例研

※コロナ感染の状況により、変更の可能性あり。

回	担当校	開催日	会場	内容
第1回	掛川 西郷小		掛川市 生涯学習セ ンター	講演 「これからの時代に求められる通級による 指導とは」 静岡大学 大塚玲先生 分科会 発音(浜松・葵が丘小 河合城聖) 遅れ(中部) 吃音(伊東・西小 荒木恵美子) (伊東市役所 清水利充) 難聴(富士宮・東小 加納理恵) LD等(中部) 教室経営(浜松・可美小 小出千恵)
第2回	富士 岩松小学校	11/12 (金) 予定	富士市交流 センター	講演 「言語発達障害の評価と指導」(仮題) 大阪芸術大学 田中裕美子先生 講演 「発達通級指導教室の指導」(仮題) 所沢市立泉小 坂本條樹先生
第3回	磐田 豊田南小 磐田中部小 豊田北部小	1月 下旬 予定		講演 「ことばの教室に通う場面緘黙の子供への 理解と支援について」 長野大学 高木潤野先生

				分科会 発音(中部) 遅れ(下田・下田小 黒田裕行) 吃音(浜松・積志小 氏原里美) LD等(浜松・天竜中 大坪和代) ※思春期情報交換を含む
--	--	--	--	--

### 3 R3年度 東海四県岐阜大会

分科会	提案者	司会者
きこえに心配のある子ども	富士宮市立東小学校 加納 理恵先生	富士宮市立東小学校 大内 伸枝先生
つながり	浜松市立可美小学校 小出 千恵先生	浜松市立可美小学校 南谷 由香先生

### 4 会報

5月 553号 浜松市立葵が丘小学校	6月 554号 浜松市立追分小学校	7月 555号 浜松市立双葉小学校
9月 556号 静岡市立清水三保第二小学校	10月 557号 焼津市立大井川中学校	11月 558号 菊川市立小笠北小学校
1月 559号 沼津市立第四小学校	2月 560号 富士宮市立大富士小学校	

### 5 会誌

今年度は、講演延期・分科会紙上発表になったため、各地区講習会についてのみまとめ、HPにアップする予定。

【内容】 各地区講習会の実施日・会場・内容等

【枚数】 各地区6ページ程度

※講習会担当校が原稿を作成し、地区事務局がまとめる。

※写真・画像は圧縮して容量を軽くする。

【期限】 2月末日 データをEメールで提出

【提出先】 浜松市立可美小学校 南谷由香

Eメール: [ym14525@city.hamamatsu-szo.ed.jp](mailto:ym14525@city.hamamatsu-szo.ed.jp)

※ 不明な点は研究部 南谷に連絡。(TEL 053-447-0043 FAX 053-447-8314)

令和3年度 静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会

## 言語障害児指導相談事業補助金会計 予算書(案)

収入金額	5,800,000 円
支出金額	5,800,000 円
繰越残高	0 円

## 1 収入内訳

A 運営費助成金	3,000,000 円
B 研修会費	750,000 円
C 講習会費	1,105,000 円
D 啓発事業費	945,000 円
合 計	5,800,000 円

## 2 支出内訳

単位:円

摘要事業費	内容	金額	
A 運営費助成金	県内49教室教材費	2,972,000	3,000,000
	振込手数料	27,000	
	予備費	1,000	
B 研修会費	第1回定例研修会	250,000	750,000
	第2回定例研修会	300,000	
	第3回定例研修会	200,000	
C 講習会費	東部地区講習会	205,000	1,105,000
	中部地区講習会	390,000	
	西部地区講習会	305,000	
	検査技能講習会	205,000	
D 啓発事業費	地域相談事業(東部)	100,000	945,000
	電子媒体による相談事業	222,200	
	心理検査用具	616,000	
	調査費(通信費)	6,800	
合 計		5,800,000	5,800,000

※ B、C間の流用を認める。

令和3年度

事業計画(地区講習会) (案)

資料8-2

講習会・研修会	所要経費(円)
東部地区講習会・研修会	205,000
中部地区講習会・研修会	390,000
西部地区講習会・研修会	305,000
検査技能講習会	205,000
計	1,105,000

(内訳)

## &lt;東部地区講習会・研修会&gt;

講習会・研修会	参加人数(人)	開催月日	開催場所	所要経費(円)	県補助費(円)	領収証番号
指導者研修会(新任研)	50	4月	沼津市	5,000		
事例検討会	20	8月上旬	富士市	10,000		
講演会(幼保研)	70	9月	三島市	90,000		
指導者研修会	60	6月	熱海市	90,000		
オンライン講習会整備等			東部地区	10,000		
			計	205,000		

## &lt;中部地区講習会・研修会&gt;

静岡地区指導者研修会(新任研)	50	4月6日	静岡市	40,000		
静岡地区担当者講習会	80	6月12日	静岡市	35,000		
静岡地区担当者講習会	50	7月	静岡市	55,000		
静岡地区担当者講習会	150	8月10日	静岡市	60,000		
志太・榛原地区担当者講習会	10	6月	島田市	10,000		
志太・榛原地区担当者講習会	40	6月か7月	焼津市	40,000		
志太・榛原地区担当者講習会	40	10月か12月	吉田町	40,000		
小笠地区講習会	30	6月か9月	掛川市	100,000		
オンライン講習会整備等			中部地区	10,000		
			計	390,000		

## &lt;西部地区講習会・研修会&gt;

担当者講習会	70	4月23日	浜松市	50,000		
担当者講習会	30×3	5, 7, 9月	浜松市	20,000		
担当者講習会	40	6月19日	浜松市	35,000		
担当者講習会	50	9月	袋井市	80,000		
担当者講習会	30	9月	浜松市	30,000		
担当者講習会	30	11月	未定	80,000		
オンライン講習会整備等			西部地区	10,000		
			計	305,000		

## &lt;検査技能講習会&gt;

東部地区検査技能講習会	30	10月	沼津市	70,000		
中部地区検査技能講習会	100	8月	静岡市	70,000		
西部地区検査技能講習会	30	7月10日	浜松市	35,000		
オンライン講習会整備等			3地区	30,000		
			計	205,000		

## 静言研 定例研・地区講習会の講師謝金について

静言研では、定例研や地区講習会での講師の講演料について、次のように決めます。(R2年度より実施)

会や地区によってばらつきがないように確認してください。

役職	金額	備考
現職会員	交通費	資料代(紙や印刷にかかった費用)があればお支払いする。領収書を提出していただく。 2000円以内とする。
教職員		
委員会関係者		
大学教授	3～7万円 (准教授・講師は3～4万円)	
ドクター		
ST	2～3万円	
巡回支援員		
心理士		
著名人	3～7万円	

※ 弁当代、お土産代、茶菓子、飲み物代、それに関するもの(送料)は補助金の対象外となります。

※ ただし、講演での講師飲み物に関して、経費が発生する場合は、事前に事務局にご相談ください。